発行日　　2007 年 9 月 12 日　第 3 版

製品安全データシート

1.　化学物質等および会社情報

【製品名】　モールドリリース SP-40R

【製造者】　W.N. SHAW & CO. INC.
853 Park LaMar Drive Villa Ridge, MO. 63089

【供給者】　東京材料株式会社
東京都千代田区丸の内1丁目6番2号
新丸の内センタービル
TEL:03－5219－2178
FAX:03－5219－2195
Email:東京材料のホームページ(http://www.tokyozairyo.co.jp/)
内の問合せ窓口をご利用ください。

2.　危険有害性の要約

危険有害性情報

物理化学的危険性

火薬類	分類できない
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	区分3
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品物質	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類できない

金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	
急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	区分外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
急性毒性(吸入;粉塵、ミスト)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	区分外
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分2
生殖毒性	区分2
授乳に対する影響	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(腎臓、全身毒性、中枢神経系)、区分3(呼吸器)
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分2(肝臓、血管、脾臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性	
水生環境有害性・急性	区分外
水生環境有害性・慢性	区分外

ラベル表示:

注意喚起語： **危険**

危険有害性情報：
- 引火性液体および蒸気
- 気道刺激性）気道への刺激のおそれ／（麻酔作用）眼気またはめまいのおそれ
- 吸入すると有害(気体, 蒸気, 粉塵, ミスト)
- 重篤な眼への刺激性
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- 臓器の障害（腎臓、全身毒性、中枢神経系、呼吸器）

- 長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ（肝臓、血管、脾臓）
- 発がんのおそれの疑い
- 皮膚刺激

注意書き：

【安全対策】
- 保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- 容器および受器を接地すること。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入しないこと。
- 容器を密閉しておくこと。
- 火災の場合には、消火に適当な手段を使用すること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

【救急処置】
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
- 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
- 吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚(または毛)にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

【保管】
- 施錠して保管すること。
- 容器を密閉して換気の良い涼しいところで保管すること。

【廃棄】
- 内容物／容器を地方自治体の規則に従って廃棄すること。

国・地域情報：

3. 組成、成分情報

通知対象成分:

化学名 CAS番号	含有量 (%)	化審法: 官報公示整理番号	PRTR法:	安衛法:	毒劇法:
水素化精製重質ナフサ(石油) 64742-48-9	35	(9)-1694	該当せず	政令第 18 条の 2 別表第 9 の330	該当せず
水素化精製軽質ナフサ(石油) 64742-66-8	10	(9)-1694	該当せず	政令第 18 条の 2 別表第 9 の330	該当せず
n-プロピルアルコール 71-23-8	20	(2)-207	該当せず	政令第 18 条の 2 別表第 9 の 494	該当せず
イソプロピルアルコール 67-63-0	20	(2)-207	該当せず	政令第 18 条の 2 別表第 9 の 494	該当せず
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル 34590-94-8	5.0	(2)-426	該当せず	政令第 18 条の 2 別表第 9 の 601	該当せず

その他の成分:

化学名 CAS番号	含有量 (%)	化審法: 官報公示整理番号
離型成分 登録済	10	登録済

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	麻酔作用による眠気およびめまいのおそれと皮膚刺激。
最も重要な兆候及び症状	眼に対する損傷。
応急処置するものの保護	保護具を着用すること。
医師に対する特別注意事項	安静に保ち、医学的な経過観察を行うこと。

5. 火災時の措置

爆発限界（% BY Volume）	下限	上限
水素化精製重質ナフサ（石油）	0.7	5.6
水素化精製軽質ナフサ（石油）	0.9	6.2
イソプロピルアルコール	2.0	12.7
n-プロピルアルコール	2.1	13.5
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	1.1	14.0

消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末、耐アルコール性泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災によって刺激性・毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 極めて燃えやすい。熱・火花・火炎で容易に発火する。 引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法	閉塞された場所で消火活動をする場合は自給呼吸装置を付けること。
消火を行うものの保護	空気呼吸器又は防毒マスク、化学用保護衣を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収剤で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

	少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
封じ込め及び浄化方法と機材	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

［取扱い上の注意］

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照

［保管上の注意］

技術的対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

	保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること 禁煙 酸化剤から離して保管する 容器は直射日光や火気を避けること 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
混触危険物質	「10. 安定性及び反応性」を参照
容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止および人に対する保護措置

［管理濃度］

設定されていない

［許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）］

内容物	OSHA TWA	ACGIH TLV	STEL	単位	備考
水素化精製重質ナフサ	196			ppm	
水素化精製軽質ナフサ	281			ppm	
イソプロピルアルコール	400	400	500	ppm	皮膚
n-プロピルアルコール	200	200	250	ppm	皮膚
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	100	100	150	ppm	皮膚

［設備対策］

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること

静電気放電に対する予防措置を講じること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置すること。

［保護具］

呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な顔面用の保護具を着用すること。

［衛生対策］

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的および化学的性質

引火点	:24.4℃（測定方法：PMCC）
沸点	:117.8℃
比重	:0.78
蒸気圧	:15（n-プロピルアルコール/mm/Hg）
蒸気密度	:>1（空気=1）
揮発率	:90－99（重量比%）
蒸発率	:＜1（ｴｰﾃﾙ=1）
水に対する溶解度	:なし
pH	:適用できない
外観と匂い	:透明な液体。柔かい臭い

10. 安定性および反応性

安定性	:安定
避けるべき条件	:熱、花火、火炎から放しておくこと。
一緒に保管できないもの	:強い酸化剤。
有害分解成生物	:高温にさらされた場合、炭化水素系分解物が生成される。
有害合成物質	:発生しないと、考えられている。

11. 有害性情報

項目		
急性毒性	経口	n-プロピルアルコール：ラット LD50 値：1900mg/kg（ACGIH, 2004）、1870mg/kg（PATTY 4th, 1994、EHC 102, 1990）、5400mg/kg（PATTY 4th, 1994）、6500mg/kg（PATTY 4th, 1994、EHC 102, 1990）に基づき、計算を適用した。計算値は 2695mg/kg であったことから、区分 5 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：ラット LD50 値：5350mg/kg（ACGIH 7th, 2001）、5400mg/kg（SIDS, 2001）、5100mg/kg（ACGIH 7th, 2001）、5180mg/kg（ACGIH 7th, 2001、PATTY 4th, 1994、SIDS, 2001）に基づき、区分外とした。
	経皮	n-プロピルアルコール：ウサギ LD50 値：6700mg/kg（PATTY 4th, 1994、ACGIH, 2004）、4060mg/kg（ACGIH, 2004）、4000mg/kg（PATTY 4th, 1994）および 4050mg/kg（EHC 102, 1990）に基づき、計算を適用した。計算値は 4031mg/kg であったことから、区分 5 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：ウサギ LD50 値：9500mg/kg（ACGIH 7th, 2001、SIDS, 2001）、13000-14000mg/kg（DFGOT vol.6, 1994、SIDS, 2001）、10100mg/kg（DFGOT vol.6, 1994、SIDS, 2001）、＞19000mg/kg（SIDS, 2001）に基づき、区分外とした。
	吸入	水素化精製ナフサ(石油):ラット LC50=3400ppm（ACGIH（2001））に基づき区分 4 とした。
皮膚腐食性･刺激性		n-プロピルアルコール：PATTY（4th, 1994）のウサギの皮膚を極めて軽度に刺激したとの記述から、区分 3 の可能性があるが、EHC 102（1990）のヒトの皮膚に適用した試験において 12 例中 9 例で erythema が認められたとの記述から、区分 2 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:ACGIH（7th, 2001)およびSIDS（2001)のウサギの皮膚に適用した試験において刺激性が認められなかったとの記述、ならびに ACGIH（7th, 2001)、DFGOT(vol.6, 1994)、PATTY(4th, 1994)およびSIDS(2001)のヒトの皮膚に適用した試験において刺激性が認められなかったとの記述から、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷･眼刺激性		n-プロピルアルコール：ACGIH（2004)、PATTY（4th, 1994）のウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁および潰瘍形成が認められたとの記述から、区分 2A とした。

	ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：ACGIH (7th, 2001)のウサギの眼に適用した試験において軽度な角膜刺激性が認められたとの記述から、区分２B とした。
呼吸感作性	n-プロピルアルコール、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：データなし
皮膚感作性	n-プロピルアルコール：EHC 102 (1990) にパッチテストでアレルギー性反応が認められた 1 症例の記述があるが、他にデータはなく、データ不足のため分類できないとした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：ACGIH (7th, 2001)、DFGOT (vol.6, 1994)、PATTY (4th, 1994)および SIDS (2001)に 250 例を対象としたパッチテストにおいて感作性は認められなかったとの記述があるが、動物試験データはなく、明確に感作性を否定する記述もないことから、区分外とするにはデータ不足と考え、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	n-プロピルアルコール：in vitro 試験のデータしかないため分類できない。 in vitro 試験で陰性のデータしかないため分類できない。
発がん性	n-プロピルアルコール：ACGIH (2004) で A3 に分類されていることから、区分 2 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：データなし
生殖毒性	n-プロピルアルコール：ACGIH (2004)および PATTY (4th, 1994) の妊娠中のラットに吸入暴露した試験において母動物に一般毒性が認められる用量で奇形の増加が認められたとの記述、ならびに ACGIH (2004)、PATTY (4th, 1994)、EHC 102 (1990) の雌雄ラットを用いた吸入暴露試験において一般毒性が認められる用量で雄の生殖能低下および子の奇形（crooked tail）増加が認められたとの記述から、区分 2 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：PATTY (4th, 1994)および SIDS (2001)にラットおよびウサギを用いた妊娠中吸入暴露試験において生殖毒性が認められなかったとの記述があるが、これらの試験は親動物に一般毒性が認められない用量で実施されていることから、区分外の根拠とするには十分なデータではなく、データ不足のため分類できないとした。
授乳に対する影響	n-プロピルアルコール、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル：データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒	n-プロピルアルコール：ACGIH (2004)、EHC 102 (1990)、PATTY

性(単回暴露)	(4th, 1994) のラット、マウスまたはウサギを用いた吸入暴露または経口投与試験において麻酔作用が認められたとの記述、ならびに EHC 102 (1990) のマウスを用いた吸入暴露試験において気道刺激性を示唆する呼吸数の減少が認められたとの記述から、区分 3（麻酔作用、気道刺激性）とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:ACGIH（7th, 2001)、DFGOT (vol.6, 1994)、PATTY (4th, 1994)および SIDS (2001)のウサギを用いた経皮投与試験またはラットを用いた経口投与および吸入暴露試験において麻酔作用が認められたとの記述、ならびに ACGIH (7th, 2001)、DFGOT (vol.6, 1994)、PATTY (4th, 1994)および SIDS (2001)のヒト暴露例で気道刺激性が認められたとの記述から、区分 3（気道刺激性、麻酔作用）とした。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	n-プロピルアルコール：データ不足のため分類できない。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:ACGIH（7th, 2001)、DFGOT (vol.6, 1994)、PATTY (4th, 1994)、SIDS (2001)のラット、ウサギまたはマウスを用いた吸入暴露、経口投与または経皮投与試験において区分 2 のガイダンス値範囲を超える用量でも重大な毒性作用は認められなかったとの記述から、区分外とした。
吸引性呼吸器有害性	n-プロピルアルコール：3 以上 13 を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコールであることから、区分 2 とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:データなし

12. 環境影響情報

項目	
水生環境急性有害性	n-プロピルアルコール：甲殻類（ミジンコ）の 48 時間 LC50=3025mg/L（EHC102、1990）から、区分外とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 LC50=1919mg/L（SIDS、2004）から、区分外とした。
水生環境慢性有害性	n-プロピルアルコール:難水溶性でなく（水溶解度=1.00×10^6mg/L（PHYSPROP Database、2005））、急性毒性が低いことから、区分外とした。 ジプロピレングリコールモノメチルエーテル:難水溶性でなく（水と混和（SIDS、2004））、急性毒性が低いことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物　　廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装　容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

［国際規制］

海上規制情報	IMO の規定に従う。
UN No.:	1993
Proper Shipping Name:	FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (CONTAINS SYNTHETIC ISOPARAFFINIC HYDROCARBON, ISOPROPANOL, N-PROPYL ALCOHOL)
Class:	3
Packing Group:	III
Marine Pollutant:	Not applicable.
航空規制情報	ICAO/IATA の規定に従う。
UN No.:	1993
Proper Shipping Name:	FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (contains Synthetic Isoparaffinic Hydrocarbon, Isopropanol, N-Propyl Alcohol)
Class:	3
Packing Group:	III

［国内規制］

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号:	1993
品名:	引火性液体、n.o.s.
クラス:	3
容器等級:	III
海洋汚染物質:	該当せず
航空規制情報	航空法に従う。
国連番号:	1993

品名:	引火性液体、n.o.s.
クラス:	3
容器等級:	III

［特別の安全対策］

- 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。
- 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。
- 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
- 移送時にイエローカードの保持が必要。
- 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法	危険物　第 4 類第二石油類
PRTR法	本製品は対象物質を含有しておりません
労働安全衛生法	施行令別表第 1　危険物（引火性の物）
	施行令別表第 6 の 2　有機溶剤（第 2 種有機溶剤）
	施行令第 18 条　（水素化精製ナフサ、プロピルアルコール、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル）
船舶安全法	危規則告示別表第 5　引火性液体類
航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 3　引火性液体
港則法	施行規則第 12 条　危険物（引火性液体類）

16. その他の情報

引用文献

1. MSDS for SP-40R（W.N.SHAW & COMPANY INC.） Rev.3
2. NITE の GHS 分類データベース

危険有害性項目		分類	判定根拠
急性毒性	経口	区分外	加算式:区分外 計算式 100/(判定対象製品の毒性値)=(各成分の濃度/各成分の毒性値)の合計 より得られた毒性推定値 6833.852 が 5000 より大きいため、区分外とした。
	経皮	区分外	加算式:区分外 計算式 100/(判定対象製品の毒性値)=(各成分の濃度/各成分の毒性値)の合計 より得られた毒性推定値 8653.8603 が 5000 より大きいため、区分外とした。
	吸入:蒸気	区分4	加算式:区分4 計算式 (100-毒性値不明の成分の濃度合計)/(判定対象製品の毒性値)=(各成分の濃度/各成分の毒性値)の合計 より得られた毒性推定値 17.11 が 20 以下であるため、区分4とした。 ただし、製品のうち 30%の成分は毒性が不明であった。
皮膚腐食性/刺激性		区分2	加成性:区分2 区分1の濃度の合計:0% 区分2の濃度の合計:65% 区分3の濃度の合計:0% 判定3「(区分2の成分の濃度合計)が 10%以上」を満たす。 以上より区分2とした。 ただし、製品のうち 5%の成分は毒性が不明であった。
眼に対する重篤な損傷/刺激性		区分2A	加成性:区分2A 皮膚刺激性　区分1の濃度の合計:0% 眼刺激性　区分1の濃度の合計:0% 眼刺激性　区分2Aの濃度の合計:40% 眼刺激性　区分2Bの濃度の合計:5% 判定6「(眼刺激性区分2Aの成分の濃度合計)が 10%以上」を満たす。 以上より区分2とした。
呼吸器感作性		区分外	カットオフ値:区分外 呼吸器感作性をもつ成分のうち、固体／液体のカットオフ値 0.1%以上含まれる成分が無いため区分外とした。 ただし、製品のうち 95%の成分は毒性が不明であった。
皮膚感作性		区分外	カットオフ値:区分外

		皮膚感作性をもつ成分のうち、カットオフ値 0.1%以上含まれる成分が無いため区分外とした。 ただし、製品のうち 50%の成分は毒性が不明であった。
生殖細胞変異原性	区分外	カットオフ値:区分外 生殖細胞変異原性をもつ成分のうち、濃度 0.1%以上（区分1）もしくは 1%以上（区分2）含まれる成分が無いため区分外とした。 ただし、製品のうち 30%の成分は毒性が不明であった。
発がん性	区分2	カットオフ値:区分2 区分2に分類される以下の成分がカットオフ値 0.1%以上含まれるため、区分2とした。 n-プロピルアルコール（20%） ただし、製品のうち 55%の成分は毒性が不明であった。
生殖毒性	区分2	カットオフ値:区分2 区分2に分類される以下の成分がカットオフ値 0.1%以上含まれるため、区分2とした。 n-プロピルアルコール（20%）、イソプロピルアルコール（20%） ただし、製品のうち 60%の成分は毒性が不明であった。
授乳に対する影響	分類できない	カットオフ値:分類できない 全成分において毒性区分が不明であるため、分類できません。
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分1 区分3	カットオフ値:区分1 区分1に該当する以下の成分が 1%以上含まれているため、区分1に分類できる。 イソプロピルアルコール：濃度=20%、区分1（腎臓、全身毒性、中枢神経系） 区分3に該当する以下の成分が 20%以上含まれるため、区分3に分類できる。 n-プロピルアルコール：濃度=20%、区分3（気道刺激性、麻酔作用） イソプロピルアルコール：濃度=20%、区分3（気道刺激性） 判定結果 区分1（腎臓、全身毒性、中枢神経系） 区分3（気道刺激、麻酔作用） ただし、製品のうち 5%の成分は毒性が不明であった。
特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）	区分2	カットオフ値:区分2 区分2に該当する以下の成分が 1%以上含まれているため、区分2に分類できる。

		イソプロピルアルコール：濃度=20%、区分2（肝臓、血管、脾臓） 判定結果 区分2（肝臓、血管、脾臓） ただし、製品のうち 70%の成分は毒性が不明であった。
吸引性呼吸器有害性	分類できない	カットオフ値:分類できない 動粘性率が不明であるため、分類できません。
水生環境有害性（急性）	区分外	加算式:区分外 区分1の濃度の合計：0% 毒性乗率による換算値 区分2の濃度の合計：0% 区分3の濃度の合計：0% カットオフ2「（区分1の成分の濃度合計）× 10 ＋（区分2の成分の濃度合計）が 25%より大きい」を満たさない。 カットオフ3「（区分1の成分の濃度合計）× 100 ＋（区分2の成分の濃度合計）× 10 ＋（区分3の成分の濃度合計）が 25%より大きい」を満たさない。 以上の条件をすべて満たさなかったため、区分外とした。 ただし、製品のうち 50%の成分は毒性が不明であった。
水生環境有害性（慢性）	区分外	加算式:区分外 区分1の濃度の合計：0% 区分1の濃度の合計：0% 毒性乗率による換算値 区分2の濃度の合計：0% 区分3の濃度の合計：0% 区分4の濃度の合計：0% カットオフ2「（M×区分1の成分の濃度合計）× 10 ＋（区分2の成分の濃度合計）が 25%より大きい」を満たさない。 カットオフ3「（M×区分1の成分の濃度合計）× 100 ＋（区分2の成分の濃度合計）× 10 ＋（区分3の成分の濃度合計）が 25%より大きい」を満たさない。 カットオフ4「（区分1の成分の濃度合計）＋（区分2の成分の濃度合計）＋（区分3の成分の濃度合計）＋（区分4の成分の濃度合計）が 25%より大きい」を満たさない。 以上の条件をすべて満たさなかったため、区分外とした。 ただし、製品のうち 50%の成分は毒性が不明であった。

※ この資料は参考用に作成されたもので、内容を保証するものではありません。
ご使用される場合は、自己の責任でご使用ください。

以上